

引退 貴

すがすがしい気分



引退の記者会見であいさつする貴乃花(共同)



初場所8日目 父・二子山親方の前で土俵入りを披露する貴乃花。これが最後の土俵入りとなった

大相撲の一時代を築いた横綱貴乃花(30日二子山)が20日、現役引退を表明した。「きょう(取組が)終わって、最終的に決断はしたが、朝まで時間を下さいと言った。(引退を)心の底から納得し、

すがすがしい気分。長きにわたり休ませていただき、また復帰させていた。今場所また休むことは全く頭になかった」と東京・両国国技館で行われた会見で、穏やかな表情で心境を語った。

大相撲65人目の横綱で、22回の優勝を誇った「平成の大横綱」は今後、この日認められた一代年寄「貴乃花」として二子山部屋で後進の指導に当たる。2場所ぶりの出場だった今場所、一昨年の

◆貴乃花関の話 きょう(19日)

の取組を終えた段階で引退を決意した。肩のけががなくても同じ結果になっていたと思う。おかげさまで非常にすがすがしい気分。横綱になれるとは思わず入門したので、こうして引退までこられたことはいずれいい。(一代年寄は)非常に光栄です。

◆二子山親方(元大関貴ノ花)

の話 寂しさはない。反対にほっとした。安んじ感の方が大きい。横綱が上がった当時から、力が落ちたと思ったら引退すると話していた。(今場所は)何とか力を出そうとしていたが、ひざがよくなく、肩も痛めている。これはやむを得ない。(今後は)少し心も体も休めてもらって、時期が来たら部屋を貴乃花に譲りたい。

夏場所でも負った右ひざの古傷に加え、新たに左肩も負傷。途中休場を挟み、横綱としては異例の再出場に踏み切ったが、8日目を終わって4勝3敗1休と力を出せず、引退を決めた。引退相撲は6月1日に両国国技館で行う予定。

15年間の土俵人生に終止符 一代年寄「貴乃花」襲名へ



学生服姿で二子山理事長に角界入りあいさつ。左から藤島親方(二子山親方)花田勝(若花田)花田光司(貴花田)花田憲子(藤田憲子)=88年2月21日



初優勝し二子山理事長(初代若乃花)から賜杯をうける貴花田(貴乃花)=92年1月26日



横綱昇進の口上を述べる貴乃花=194年11月23日



優勝決定戦で武蔵丸(左)を上手投げで破った貴乃花は鬼の形相=2001年5月27日